

子どもの「できた・わかった」姿を目指した授業づくり
～算数科における授業実践を通して～

提案者 川添 直人 白土 暢之

1 学部研究主題設定の理由（紀要pp. 21-25）

小学部では、子どもの実態、前次研究、特別支援教育に係る動向から学部研究主題「子どもの『できた・わかった』姿を目指した授業づくり」を設定し、算数科を授業の形態として取り上げること
で指導の効果を検証することにした。

わたしたちは、子どもの「できた・わかった姿」を「子どもが学習活動の中で、自らの成功を期待して主体的に取り組み、その喜びを味わう姿」と整理し、全体研究基調に示すつながりとひろがりの視点から授業づくりを行うことにした。

2 研究内容と方法（紀要pp. 26-27）

研究内容

子どもの「できた・わかった」姿を目指して、「学び」のつながりとひろがりという二つの視点から算数科の授業づくりに取り組む。

視点1： 一単位時間の子どもの「学び」の姿をとらえ、「学び」の三要素と学習形態の工夫による授業実践と授業改善

視点2： 一つの題材における指導計画及びほかの指導の形態で活用する場面の設定と子どもの姿の検証

研究方法

学部研究主題を受け、研究内容に挙げた視点1、2を踏まえて授業づくりを行う。具体的には、学習グループごとにまず授業研究を行い、子どもの「学び」の姿から授業改善のポイントを探っていく。次に、改善ポイントに従って授業を行い、一人一人の変容をとらえて「できた・わかった」姿から、授業改善のプロセスを検証する。最後に検証した結果を、ほかの指導の形態における個々の「学び」と関連させてとらえることで、「学び」のひろがりについても検証を行う。

3 研究の実際（紀要pp. 28-45）

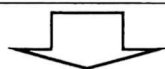
(1) 授業づくりの実際（紀要pp. 28-29）

「学び」の三要素と学習形態に着目した授業改善を行ったところ、授業研究の方法が変化していった。

気になった子どものエピソードを付せん紙に記述し、「学び」の三要素に分けて、「改善ポイント」を探る方法
(実践事例1)



観察する対象の子どもを一人決めてエピソードを書き出し、三要素を三角形の図に表して「改善ポイント」を探る方法
(実践事例2)



授業者が作成した授業観察シート（紀要p. 29）を用いて、対象児一人一人の「学び」のエピソードを観察者が、授業観察シートに書き出し、授業改善シート（紀要p. 29）を使って改善ポイントを探る方法
(実践事例3)

(2) 実践事例

① 小学部 1 組グループ（紀要pp. 30-34）

ア つながりの視点

改善ポイントとして「予想する場面と結果を確かめる場面の設定」「見て、触って確認しやすい教材・教具の作成」などが出され、改善後の授業では、子どもたちのよりよい変容が見られた。

イ ひろがりの視点

なかま分けの学習後に、生活単元学習の中で他児と協力しながら、ままごとで使う用具をなかままで分ける姿が確認された。

② 算数 A グループ（紀要pp. 35-39）

ア つながりの視点

改善ポイントとして「個別的な学習におけるペア学習の設定」「大きさや厚みなどを工夫した扱いやすい教材・教具の作成」などが出され、改善後の授業では、子どもたちのよりよい変容が見られた。

イ ひろがりの視点

色や形のなかま分けの学習後に、図画工作や日常生活の指導の場面で、算数科で学んだことを意識するようになった姿が確認された。

③ 算数 B グループ（紀要pp. 40-45）

ア つながりの視点

前述の 2 グループの改善ポイントを踏まえた授業づくりを行い、授業観察シートや授業改善シートを用いた授業研究によって、子どもたちのよりよい変容が見られた。

イ ひろがりの視点

10までの数の取り出しや多少の学習後に、朝の会等の日常生活の指導や生活単元学習、個別指導の時間などにおいて、学習活動の文脈に沿って、数を数えたり、多少を判断したりするなど、数を活用する姿が確認された。

4 研究のまとめ（紀要pp. 46-50）

実践事例に見られる子どもの「学び」のエピソード、学習習得状況把握表による習得状況の変容、「学び」の印象度チェックリストの変容から、わたしたちが目指した子どもの「できた・わかった」姿を確認することができた。このことから、「学び」のつながりとひろがりの視点から、「学び」の三要素と学習形態に着目し、活用場面を意図した授業づくりが、子どもの「できた・わかった」姿を引き出すために有効であったと言える。

以下に本研究の成果と課題を示す。

成果

- ・ エピソードや学習習得状況把握表から見られた子どものよりよい変容
- ・ 授業研究の方法の変容とそれに伴う授業の変容
- ・ 子どもの内面を探ろうとする教師の変容

課題

- ・ 「自分」とのかかわりで学ぶための具体的活動内容や手立て
- ・ 題材内における活用場面の設定
- ・ 教科等にわたる年間指導計画の検討